

ちんこきょうだいの



いわての



とってまき!

魅力わんこ盛りのいわてから、いいもの、面白いものをよりすぐり。毎回わんこきょうだいがナビゲートします。

今月のテーマ

岩手の魅力を伝える 万年筆インク

いわてをイロで表現すると?



「いわてのいいイロ」って知ってる?自然や文化、伝統工芸、食など、岩手の魅力を色で伝える「いわてのいいイロ発信プロジェクト」から生まれたんだ。地域の特色を「イロ」で表現して、物産や観光などに役立てる試みだよ。



いいイロを万年筆用インクに

盛岡市の文具店「pen.(ペン)」では、いわてのイロを多くの人に伝えたいと、万年筆用インクを開発。ふるさとへの思いやイロにまつわる物語に共感して買う人が多いんだって。



イロから始まる新たな物語

「いわてのいいイロ」には、「南部 紫」「龍泉洞 ドラゴンブルー」「さんてつ トリコロール」など12色があるんだ。いわてのイロを使った商品がこれからもたくさん生まれるといいね。

「いいイロ」で
いわての物語を楽しもう。



©わんこきょうだい



いわてのいいイロ発信プロジェクトは、2014年度復興庁の「新しい東北」先導モデル事業です。
<http://www.1116nippon.net/>

現在販売されているインクは写真の3色。各色50ml入りで3,000円(税抜き)。
2020年12月ごろまでに、新たに8色開発し、11色展開を予定しています。[問]pen.019-613-3873

今月の表紙

大槌高校復興研究会



全校生徒の7割に当たる112人が所属。町の復興を発信する活動が認められ、2018年度「ほうさい甲子園」で優秀賞を受賞。

東日本大震災津波で甚大な被害を受けた大槌町で、日々変化する町の姿を記録に残そうと活動している高校生たちがいます。それは、大槌高校復興研究会「定点観測班」。毎年、町内180カ所を定期的に歩き、変わりゆく風景をカメラに収めています。

この活動が始まったのは、2013年。震災直後の避難所運営に携わり、復興支援に訪れた全国の人々と交流する中で、生徒たちは「自分たちができることをしたい」と、「復興研究会」を立ち上げました。

研究会は、「定点観測班」のほか、子どもたちと遊んだり、勉強を教える「キッズステーション班」、高校生の意見を防災や地域の活性化に生かす「防災・町づくり班」、他県の高校生と交流する「他校交流班」、全体の活動を発信する「広報班」の5班に分かれ、活動しています。

生徒たちは部活動を行いながら研究会の活動をしていて、研究会の中でも複数の班に参加する生徒も多いといいます。「他では学べないことや多くの出会いを通して、視野が広がった」「震災を知らない世代に、復興が進む町の姿や地域の人々が成し遂げたことを伝えたい」など、活動に意義を見だし、成長していく生徒たち。その思いは後輩に引き継がれ、町の未来を支える力になっていきます。